

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 村瀬成彦

論 文 題 目

A New Era of Laparoscopic Revision of Kasai Portoenterostomy for the Treatment of Biliary Atresia

(胆道閉鎖症に対する腹腔鏡下再探掘術の検討)

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

柳野 正人 

委員

名古屋大学教授

後藤 秀実 


委員

名古屋大学教授

亀井 謙 

指導教授

名古屋大学教授

内田 広夫 

論文審査の結果の要旨

今回、これまで名古屋大学小児外科で施行した胆道閉鎖症の手術症例を後方視的に検討し、開腹手術群と腹腔鏡手術群を比較することで、胆道閉鎖症に対する腹腔鏡下葛西手術と腹腔鏡下再採掘術の安全性と有用性について検討した。その結果、腹腔鏡手術群では特に合併症を認めず、初回手術後の黄疸消失率は開腹手術群と腹腔鏡手術群で有意差を認めなかった。また初回葛西手術後に黄疸が持続する症例に対しても再採掘術を施行することで自己肝生存を得られる可能性が示された。特に腹腔鏡下再採掘術ではこれまでのところ全例減黄していた。この結果、胆道閉鎖症に対する腹腔鏡下葛西手術と腹腔鏡下再採掘術は開腹手術と比較しても安全かつ有用な手術法であることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 腹腔鏡下葛西手術は標準手術ではなく、現在のところ保険収載されていない。そのため本研究は学内の生命倫理審査委員会を通して施行している。現在ではモニターを選任して手術を行っており、今後安全性をさらに高める必要がある。
2. 腹腔鏡下葛西手術では開腹葛西手術と比較して良好な肝門部の視野を得ることができ、さらにその視野を術者のみならず施設の全員で共有することができる。これにより稀少疾患である胆道閉鎖症に対する肝門部空腸吻合の経験を共有でき技術の向上につなげることができると考えている。
3. 腹腔鏡下再採掘術では、初回手術後の癒着のため血管周囲の剥離の際に出血を起こしやすい。術中出血対策として、繊細な手術操作を可能にする 3mm の鉗子類や、吸引時にも腹腔圧を維持し出血時に良好な視野を確保できる常時循環型排煙気腹装置を使用している。
4. 本研究では初回葛西手術から再採掘術までの期間は概ね 1 ヶ月であるが、初回葛西手術から長期間あけて再採掘術を行い減黄が得られた報告はないことから妥当な期間であると考ええる。
5. 胆道閉鎖症の稀少性のため本研究の対象症例数は少ない。今後も引き続き検討を重ねて行くことが重要である。

本研究は、胆道閉鎖症に対する腹腔鏡手術を確立する上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	村瀬 成彦
試験担当者	主査	柳野 正人	後藤 秀実	亀井 謙
	指導教授	内田 広大		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 保険収載されていない手術を行うにあたっての倫理的な問題について
2. 開腹葛西手術と比較した腹腔鏡下葛西手術の優位性について
3. 腹腔鏡下再採掘術における術中出血対策について
4. 初回葛西手術から再採掘術までの期間について
5. 本論文で対象とした症例数について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、小児外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。